

老人看護学教育の検討

— 看護学生のもつ老人イメージと教育のかかわり —

片山信子・出宮一徳

1. はじめに

高齢化社会は新しい老人文化を次々に生み出し、生活文化の変容の大きさやその速度の急激さとの対応に国民は戸惑いを示している。

看護の分野でも、老人看護の機会が増加する中で適切な看護を欠く場面が目立ち、その原因を考えると現在の看護教育における「よりよい老人観の育成」の乏しさがその一因として挙げられる。

現代社会において65歳以上の高齢者との同居家庭は4割にも満たず、かつ別居中の祖父母との交流を見ると、その子供達の半数は「全く行き来しない」または「行き来があっても年1-2回程度」という状況で、老人との接触が極めて乏しい¹⁾。

こうした社会の趨勢が反映されて看護婦養成所指定規則のカリキュラムが改正され、平成2年から老人看護学が独立して教授されるが、本学では既に3年前から老人看護学を教育課程の中で独立させ、社会のニーズに応えられる人材の育成に努力している。

本稿では看護学生のもつ老人像を明らかにし、老人看護学の授業展開の参考にしたい思いから、講義の前後で「老人についてのイメージ」の調査を実施して、授業による変化や背後にある共通因子を抽出し、分析結果に考察を加えた。

2. 研究方法

1) 調査方法

老人看護学で最初に位置づけられている1年次後期の老人看護概論(必修15時間)の講義開始時(1989年10月21日)に1回目を、2回目は講義の終了時(1989年12月2日)にSD法²⁾により老人についてのイメージを対極性確認調査で実施した。対象学生は本学看護科1年次生49名で、回収率は1回目が49名(100%)、2回目43名(87.8%)でさらに記入をミスした2名は統計処理から除外した。

調査票は表1に示したものをを用い、23個のコンセ

プトを7段階の設定スコアで点数化した。

老人看護概(1単位)の授業の内容は次の通りである。

①看護の対象の理解:老いとは、老化とは、老年期とは、老人と社会の変化、老化を伴う身体的変化、精神・心理的变化、社会的変化について。

②老人看護の基本的な考え方の理解:老人看護の目標、老人看護の特性、老人看護の機能と役割。

③病弱老人の看護の現状と課題の理解:寝たきり老人と生活習慣、医療体制、在宅介護、施設内看護の現状、文献学習(課題と将来を展望して考察する)。

④日常生活過程での対象に応じた基本的看護の理解:環境、排泄、栄養、清潔、薬、家族関係、呆け、コミュニケーションなど。

2) 分析方法

(1) データの数量化と基本統計

一般的に見て好ましいと思われるコンセプトの一方の極を基点として7, 6, 5, 4, 3, 2, 1と目盛りの順に得点を与え、尺度得点の平均値、標準偏差、変動係数を求め表2に示した。看護学生のもつ老人のイメージのプロフィールを図1のように表した。

(2) 相関行列および因子分析

23個の特性項目間の相関行列を求め、それから因子分析を行なって背後にある潜在因子を抽出した。使用したコンピュータはPC9801で主因子法によって求めた結果を表3-1、表3-2に示す。

(3) クラスター分析

2回目調査の23の尺度項目の相関行列からWARD法で分類し、主観を交えず特性間の類似度から似たもの同志を集めてデンドログラムに描いた。

(4) 授業開始時に行なわれた調査と同時に、自由記述法により、学生の感じている「高齢化社会の到来から生じる問題について」の記載を求め、それを内容別に分類して検討した。

表1. 調査表

()年 年 月 日

1. 「老人とは」あなたにとってどのような人なのか判断して下さい。

尺度の用い方は、次のとおりです。各ページに記された物事について、尺度の両端の形容語のどちらかが非常によくあてはまる場合には、下のように印をつけて下さい。

公正な ^x — : — : — : — : — : — : — 不正な
または

公正な — : — : — : — : — : — : — ^x 不正な
もしもどちらかの形容語がかなりよくあてはまる場合には、下のように印をつけてください。

強 い ^x — : — : — : — : — : — 弱 い
または

強 い — : — : — : — : — : — ^x 弱 い
もしもどちらかの形容語がややあてはまる場合には、下のように印をつけてください。

能動的 — : — : — ^x : — : — : — 受動的
または

能動的 — : — : — : — : — ^x : — : — 受動的
このように、判断の対象となっている事物が尺度のいずれの方向の形容語にどの程度あてはまるかをチェックしていくのです。

もしその事物が尺度の中間に位置するとか、両端の形容語の双方同じくらいあてはまるとか、どちらの形容語も全くあてはまらないと考えた場合には、尺度の中心に印をつけてください。

安全な — : — : — : — ^x : — : — : — 危険な

(注意)

(1) 印は定められた場所の中央につけるように。境界につけてはいけません。

— : — : — : — ^x : — : — : — ^x : — : —
正しい 誤った
つけ方 つけ方

(2) どの物事についても、すべての尺度に印をつけるように。つけ落としてはいけません。

動的な	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	静的な
親しみやすい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	親しみにくい
暗い	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	明るい
柔らかい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	固い
きらい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	好き
繊細な	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	大胆な
きびしい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	やさしい
楽しい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	苦しい
にぶい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	すどい
強い	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	弱い
あたたかい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	つめたい
単純な	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	複雑な
鮮やかな	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	あわい
貧しい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	豊かな
愉快な	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	不愉快な
不安定な	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	安定した
清潔な	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	汚い
無価値な	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	価値ある
悲しい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	うれしい
軽い	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	重い
美しい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	みにくい
しずかな	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	にぎやかな
大きい	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	:	—	小さい

表2. 尺度得点の基本統計

尺 度	講義開始時 1 回目			講義終了時 2 回目		
	平 均	S. D.	C. V.	平 均	S. D.	C. V.
静的な—動的な	5.7	1.1	19.3	5.5	1.2	21.8
親しみやすい—親みにくい	4.8	1.3	27.1	4.8	1.2	25.0
明るい—暗い	3.9	0.9	23.1	3.6	1.1	42.3
柔らかな—固い	4.0	1.4	35.0	3.6	1.5	41.7
好き—嫌い	5.1	1.1	21.6	4.9	1.2	24.5
繊細な—大胆な	4.9	1.3	26.5	4.9	1.5	30.6
優しい—厳しい	4.8	1.3	27.0	4.7	1.4	29.8
楽しい—苦しい	4.1	1.1	26.8	3.5	1.2	34.3
鋭い—鈍い	3.0	1.3	43.3	2.7	1.2	44.4
強い—弱い	2.4	1.3	51.1	2.3	1.2	52.2
温かい—冷たい	5.5	1.0	18.2	5.0	1.4	28.0
複雑な—単純な	4.2	1.3	31.0	4.3	1.3	30.2
鮮やかな—淡い	2.7	1.1	40.7	2.7	0.9	33.3
豊かな—貧しい	4.0	1.2	30.0	3.7	1.1	29.7
愉快的な—不愉快的な	4.3	0.8	18.6	4.2	0.8	19.0
安定した—不安定な	3.3	1.3	38.4	3.2	1.3	40.6
清潔な—汚い	3.7	1.0	27.0	3.4	0.9	26.5
価値ある—無価値な	5.7	1.1	19.3	5.5	1.1	20.0
嬉しい—悲しい	3.8	1.1	28.9	3.6	0.9	25.0
重い—軽い	4.0	1.4	35.0	3.7	1.7	45.9
美しい—醜い	3.9	0.8	20.5	3.8	1.1	28.9
静かな—賑やかな	5.1	1.3	25.5	5.4	1.0	18.5
大きい—小さい	2.7	1.3	48.1	3.0	1.5	50.0

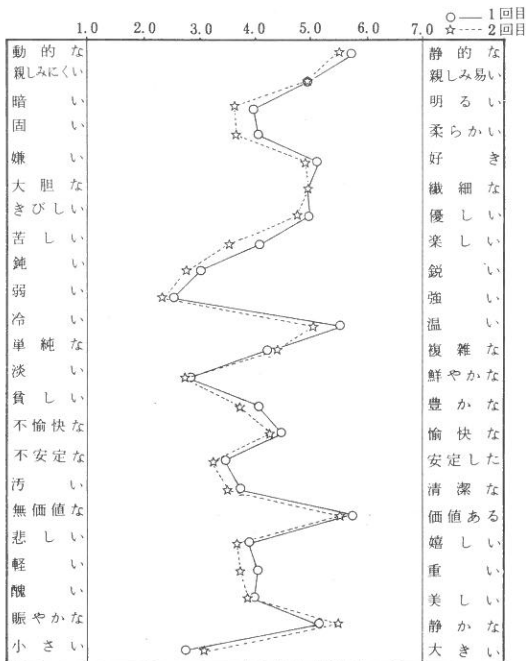


図1. 看護学生のもつ老人のプロフィール

3. 結果および考察

1) 講義前と講義後の得点の平均値の差の検定を行ったが統計学的には有意の差は認められなかった。看護学生のもつ老人のプロフィール(図1)を概観すると平均値の高い項目は「価値ある」、「静的な」、「静かな」、「温かい」、「好き」など、反対に平均値の低い項目は「強い」、「大きい」、「鮮やか」、「鋭い」、「安定した」などである。

変動係数を見ると1回目に比べて2回目は幾分ばらつきが大きく、「明るい」、「重い」、「柔らかい」に学生のイメージの多様性が見られる。

以上をまとめると看護学生にとって老人は「弱く、淡い、小さな、不安定な」存在であり、また「温かく、優しい、価値ある、静かな」存在としてイメージされるようである。

そこで昭和61年度の岡山市の調査結果³⁾を参考にして見てみると、一般市民の持つ老人のイメージは「尊敬できる(52.0%)」、「親しみやすい(49.5%)」、「自尊心が強い(49.5%)」、「明るい(48%)」などに肯定度が高い。しかし「親しみやすい」が半数もいるのに、「老人とあまり付き合いたくない」、「付き合

いたくない」が一般市民の6.3%、「どちらとも言えない」も入れると半数強にも及ぶ現状である（図2）。更に同調査で独り暮らしの老人の心境⁴⁾をうかがうと、「今後したいこと」は男女共に「子、孫との交流（46%）」、「友人、知人との交流（45%）」など人と人の交わりを望むものが最も多い。交流を望む老人と老人との付き合いを好まぬ一般市民との隔たりが増大しつつあるのが現代の世相ではあるが、小学生の頃から老人のところへ行き来し、老人から学び（教わる）、それが「老人と積極的に付き合いたい（47.2%）」との気持ちにつながるわけで、老人との関わりが少なくなればなる程老人について分かり難くなり、近付きにくくなるようである。

老人のイメージのプロフィールは、守屋らの報告⁵⁾によると、青年、壮年、老年共に同じ傾向で、好意的見方は年齢と共に次第に増加すると言う。それは体験によって影響を受けたと言うことで、今回の調査の様に講義では老人のイメージに対して大きな影響は望めない。それは体験学習として施設などで実施されている老人看護実習の学習成果「老人を身近な存在として感じる」⁶⁾からも、老人とかかわることによって老人のイメージは豊かにかつ好意的、受容的なものに変化すると考える。

老人のセルフイメージは自己認識の軸と性別を基本とした社会性の軸で老いが規定され、いずれの軸でも「収入」と「年齢」はほとんど影響を与えていない⁷⁾

と言う。老いは個々の老人の健康、役割の意識と美しいと思っている・人生に満足していると言う自己認識と社会的活動から自分自身のイメージ化をしているようである。こうして老人のセルフイメージも様々で、生き生きと活動的に生活できているか否かにより、肯定的なイメージが強められか否かを分けているようである。

今回の調査で信頼性のある結果を得るために、一様性を避け、覚度性を高める工夫をしたが、各尺度得点は中間値（4.0）近くに集中する傾向が見られた。特に「豊かな」「愉快的」「美しい」に中央化傾向が著明である。こうしたことから今後コンセプトの十分な吟味を行なって中央化傾向を少なくしたいと考えている。

2) イメージの各尺度間の相関を見ると、0.1%の危険率で有意のものは1回目で「優しい-厳しい」と「温かい-冷たい」($r=0.61$)、「柔らかい-固い」と「重い-軽い」($r=0.53$)、「好き-嫌い」と「清潔な-汚い」($r=0.52$)および「柔らかい-固い」と「清潔な-汚い」($r=0.50$)、「柔らかい-固い」と「好き-嫌い」($r=0.48$)、「暖かい-冷たい」と「豊かな-貧しい」($r=0.47$)、「強い-弱い」と「静的な-動的な」($r=-0.46$)などで（7組）、姿や言動に関して高い相関が見られ、2回目では有意の相関のものは13組に見られる。すなわち「清潔な-汚い」と「愉快的-不愉快的」($r=0.63$)、「親しみやすい-親みにくい」と「好き-嫌い」($r=0.61$)、「安

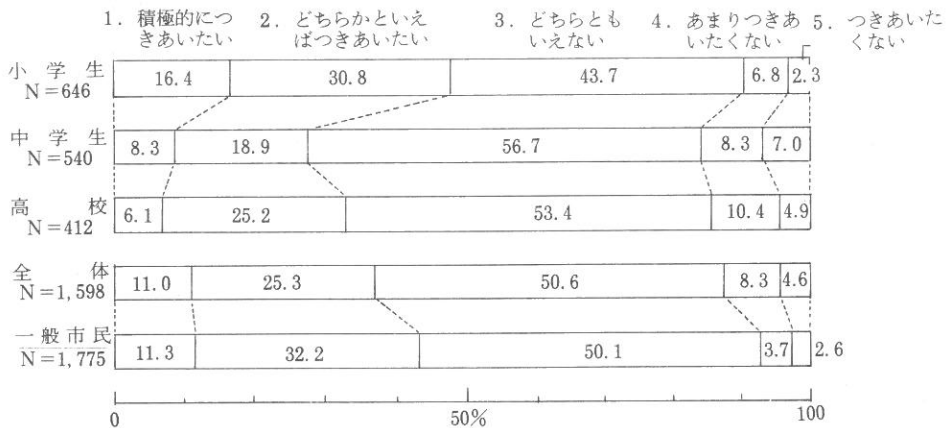


図2. おとしよりとつきあいたい

定した「不安定な」と「清潔な-汚い」(r=0.56), 「強い-弱い」と「豊かな-貧しい」(r=0.56), 「楽しい-苦しい」と「愉快的な-不愉快的な」(r=0.56), 「親しみやすい-親しみにくい」と「暖かい-冷たい」(r=0.55), 「強い-弱い」と「鋭い-鈍い」(r=0.54), 「柔らかい-固い」と「暖かい-冷たい」(r=0.54), 「楽しい-苦しい」と「大きい-小さい」(r=0.53) および「繊細な-大胆な」と「静かな-賑やかな」(r=0.53), 「静的な-動的な」と「楽しい-苦しい」(r=-0.53), 「静的な-動的な」と「豊かな-貧しい」(r=0.53), 「美しい-醜い」と「清潔な-汚い」(r=0.52) など生活背景の健康と経済的諸要因のイメージで高い相関が見られる。換言すると安定しているからこそ身だしなみよく、豊かであれば強く貧しければ弱くも見え、動けることは楽しく、生活を豊かに維持出来る。健康と活動, 役割, 生き甲斐と満足など老人のセルフ・イメージを規定した前述の内容とよく一致している。

3) 因子分析では前記のように尺度間に高い相関が

見られる相関関係を少数の潜在因子を考えて説明に使用とするものである。

講義前の場合(表3-1)の因子負荷量が「清潔な」, 「柔らかい」, 「嬉しい」, 「好き」で高いところから第1因子として若者の期待する(なりたい)老人像と解釈される。続いて第2因子は「強い」, 「厳しい」, 「親しみにくい」などの因子負荷量から、若者の苦手のタイプの老人像, 第3因子は「繊細な」, 「複雑な」, 「冷たい」, 「暗い」から分かりにくい老人像, 第4因子は「美しい」「価値ある」から若々しい老人像, 第5因子に孤独な老人像, 第6因子は老人の経済力, 第7因子はワンマン老人像, 第8因子は隠退老人像を代表する因子と解釈される。

講義後の老人のイメージ調査(表3-2)では第1因子は「楽しい」, 「清潔な」, 「愉快的な」, 「親しみ易い」などに因子負荷量が高いことから、若者の理想とする老人像を代表する因子, 第2因子は「繊細な」の因子負荷量が著しく高値を示すので老人の依存性を, 第3因子は「複雑な」, 「美しい」の因子負荷量から

表3-1 老人についてのイメージの因子分析(講義前)

尺 度		因 子 負 荷 量							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
清潔な	汚い	.75	.13	.14	.07	-.04	-.29	-.09	.22
柔らかい	固い	.67	-.38	.16	-.05	-.07	.08	-.25	-.05
嬉しい	悲しい	.65	-.06	-.04	-.04	-.30	.25	.06	-.30
好き	嫌い	.59	-.39	.27	.15	.14	-.28	-.19	-.01
愉快的な	不愉快的な	.56	-.21	-.27	-.09	.24	-.44	-.09	.01
鋭い	鈍い	.53	.39	.13	-.07	.27	-.06	.27	.23
強い	弱い	.21	.75	-.11	-.12	.17	-.13	-.23	-.05
優しい	厳しい	.36	-.53	-.60	.05	-.06	.04	.02	.21
親しみ易い	親しみにくい	.48	-.51	-.18	.18	-.23	-.03	.15	-.09
楽しい	苦しい	.48	.43	-.10	-.32	-.07	.22	.15	.05
繊細な	大胆な	-.02	-.31	.58	-.26	-.12	-.41	.35	-.21
複雑な	単純な	.08	.07	.55	.20	.32	.10	.01	.18
温かい	冷たい	.50	-.40	-.41	-.13	.30	.15	.40	.01
明るい	暗い	.41	.29	-.36	.16	.23	-.27	.13	-.27
美しい	醜い	.34	-.29	.15	.58	-.11	-.07	-.11	.06
価値ある	無価値な	.38	-.11	.27	.53	.18	.25	-.07	-.26
鮮やかな	淡い	.49	.09	.21	-.45	-.43	.00	-.22	.30
静かな	賑やかな	-.06	-.33	.26	-.37	.57	-.01	-.09	.14
豊かな	貧しい	.44	.27	.08	-.10	.39	.42	.07	-.07
重い	軽い	.44	-.40	.33	-.21	-.05	.33	-.19	-.12
大きい	小さい	.40	.42	.35	-.06	-.24	-.09	.45	-.18
安定した	不安定な	.53	.33	-.09	.23	-.16	.08	.08	.43
静的な	動的な	-.36	-.44	.22	.26	-.04	.09	.39	.40
寄 与 率 %		21.3	13.3	8.9	6.4	6.0	5.0	4.6	4.2
累 積 寄 与 率 %		21.3	34.6	43.5	49.9	55.9	60.9	65.6	69.8

表3-2 老人についてのイメージの因子分析（講義後）

尺 度		因 子 負 荷 量							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
清潔な	汚い	.68	.17	.45	-.14	.30	.17	.14	-.07
柔らかな	固い	.48	.42	-.26	-.50	.13	.15	.03	.16
嬉しい	悲しい	.45	-.01	-.31	.54	-.08	.13	.07	.21
好き	嫌い	.58	.26	.05	.36	-.10	-.12	.39	.29
愉快的な	不愉快的な	.67	.08	.20	-.13	.16	-.27	-.36	-.12
鋭い	鈍い	.54	-.52	.20	.21	.10	.03	-.08	-.14
強い	弱い	.48	-.35	-.12	.23	.54	.15	.06	.20
優しい	厳しい	.52	.46	-.00	-.39	-.08	-.22	-.36	.06
親しみ易い	親しみにくい	.61	.37	-.14	.21	-.19	-.18	.25	-.13
楽しい	苦しい	.74	-.17	-.24	-.12	-.06	-.11	.12	-.16
繊細な	大胆な	-.25	.71	-.01	.07	.05	.28	-.04	.14
複雑な	単純な	-.30	-.20	.70	.11	-.12	-.26	-.20	.23
温かい	冷たい	.61	.49	-.25	-.11	-.05	-.15	-.24	.19
明るい	暗い	.61	.07	.15	-.02	-.12	.24	-.25	.25
美しい	醜い	.33	.26	.66	.00	.05	-.13	.14	.05
価値ある	無価値な	.40	.21	.24	.46	-.46	-.05	-.29	-.07
鮮やかな	淡い	.19	-.59	.09	-.23	-.15	.31	.06	.51
静かな	賑やかな	-.22	.56	.03	.45	.42	.35	-.16	-.18
豊かな	貧しい	.58	-.30	-.17	.25	.36	-.21	-.35	.06
重い	軽い	.30	-.01	.07	.05	-.57	.46	.11	-.17
大きい	小さい	.58	-.28	-.04	-.18	-.13	.31	-.01	-.20
安定した	不安定な	.50	-.01	.42	-.17	.20	.25	-.17	-.24
静的な	動的な	-.61	.35	.28	-.04	.15	.12	.20	.18
寄 与 率 %		26.1	12.6	8.2	7.1	6.4	5.0	4.4	4.0
累 積 寄 与 率 %		26.1	38.7	46.9	54.0	60.4	65.4	69.8	73.8

完熟した老人像を、続いて「嬉しい」、「固い」、「価値ある」の因子負荷量の増加を示していることから第4因子は面倒をよく見る老人像、第5因子は独居老人のイメージ、第6因子は家族に囲まれた老人像を、第7因子は老いた親のような老人像、第8因子はリーダー的存在の老人を代表する因子と解釈される。第8因子までの累積寄与率は73.8%であり、講義前の69.8%より4%増えて入るが、いずれも共通因子の寄与率が低いことから1因子だけで代表させて解釈することは少し無理がある。

以上、講義の前後の学生のもつ老人のイメージを比較すると、変量間の共通因子は著しい違いを示した。講義前の老人像はテレビ、雑誌、文学書などから得た情報が主となっていて、イメージも表面的なことが見受けられた。学生の認識は老人に期待する姿、あるいは老害と言われるその姿のいずれか二者択一で位置づけられていた様だ。この学生たちが老人に関する看護の知識を獲得した結果として、今まで「古い」を単純に、平板的な感覚で捕らえがちだった認識が、老人のもつ複合的な要素（健康、環境、生活、生き方および

歴史）などの知識を踏まえて、老人に相対してゆるげ様な変化を起こし始めた考える。

現在のわれわれの周囲は、技術、管理、官僚社会が主流となり、合理化、能率化と生産性が追求され、まさに弱肉強食、過当競争、能率主義は弱者・老人を社会の片隅に押しやり、地域間・世代間の交流を疎んじるといった傾向を生んでいることは否めない。この現状では若者のもつ老人のイメージも希薄なものとなり、肯定的なものよりむしろ否定的（拒否的）になるのも不思議ではなからう。

しかし現在の老人の健康度は約74%⁸⁾の老人が健康であると考えており、人口の高齢化は健康な老人も増加する。2021年には4人に1人が65歳以上で生産年齢層の割合は減少する予測があり、こうした情勢では老人は余生でなく本生を生きなければならない。90年代以降は権利主体、活動主体、成熟主体の健康観⁹⁾を持つ老人と協力して社会を運営しなければこの高齢化社会を乗り越えられない。若者と老人の老人観が客体的老人像、否定的老人像では、両者の協力体制は望めなくなる。

図3 現代日本人の老年観

	社会の客体	社会の主体
五〇年代以前	隠居制度（老衰者、引退者、親族による被扶養者、敬愛の対象、経験知などによる尊敬の対象） 孝の思想、敬老思想 貧困老人（労働者の老後）	賢者としての老年、「枯れた」老年＝「タテマエ」 愚者としての老年、子どもに返った老年＝「ホンネ」
六〇年代以降	老年人口（かつての生産年齢人口、生産年齢人口による社会的扶養の対象、生産年齢人口の負荷） 従属人口（年少人口と一括される） 敬老思想（実績主義にもとづく）＝「タテマエ」 社会的弱者（能力主義にもとづく）＝「ホンネ」 老年への蔑視（醜い老年、無力な老年）、老年への無関心＝「ホンネ」	権利主体としての老年（生存権の主体） 活動主体としての老年（余暇、リハビリテーション、労働、学習、スポーツ、社会運動の主体） 成熟主体としての老年（人間性、人間関係の洞察の主体、老い、病い、死の受容の主体）

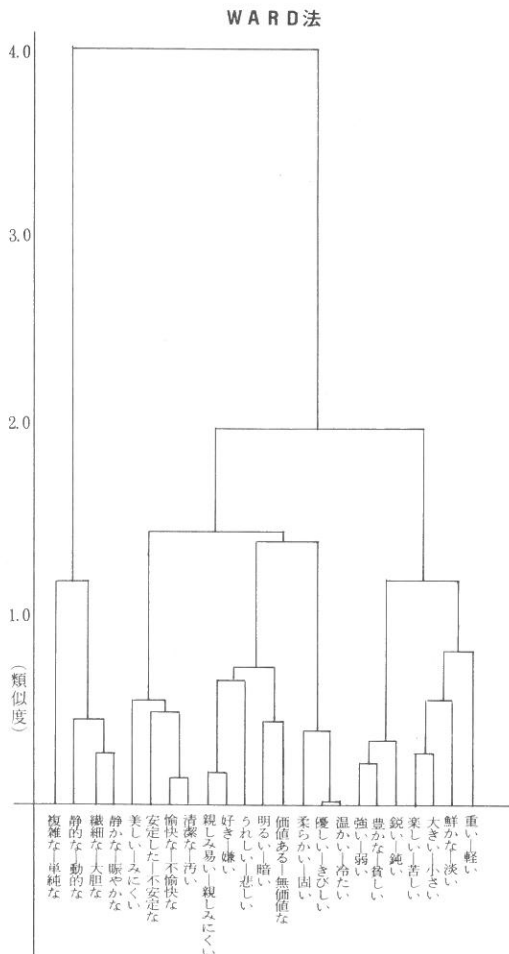


図4. クラスタ分析による樹形図（講義終了時）

看護の面でも「肯定的か否定的な看護婦たちの態度は、老人患者に見られる行動が社会的に容認されるか否かに規定される」¹⁰⁾ という説からも、学生が肯定的な態度で老人に対することができる能力の養成は必須である。

4) クラスタ分析により講義終了の学生のもつ老人についてのイメージを、各尺度を分類し樹形図で示したのが図4である。

23個の特性項目は5つの群にまとめることができる。即ち「豊かな－貧しい」、「強い－弱い」、「鋭い－鈍い」、「大きい－小さい」、「楽しい－苦しい」、などで集まる老人のもつ経済面の**豊かさ**を示す群、次に「温か－冷たい」、「優しい－厳しい」、「柔らかい－固い」はのまともりは**温和性**の群、「好き－嫌い」、「親しみやすい－親しみにくい」と「価値ある－無価値な」などで形成された群は**親和性**を示す。「清潔な－汚い」、「愉快な－不愉快な」や「安定した－不安定な」でまとまる**健康度**、「静かな－賑やかな」、「繊細な－大胆な」と「静的な－動的な」など**活動性**を表わす群である。

以上、老人を経済性、温和性、親和性、健康度、活動性の5群に老人のイメージは分類された。

5) 「高齢化社会の到来から生じる問題について」の学生の自由解答を分類したのが表4-1である。学生のもっとも関心があったのは、「寝たきりや病気になった時の介護力の不足」であり、次に「独り暮らし、孤独な老人の増加」、「若者への経済的負担の増加」および「病院・施設の不足について、老人医療について」などが目立っていた。なかでも介護力、看護力の保証を懸念した学生は7割にも及ぶ。また長寿社会での老人の生き方、死生観などに関わる問題にも2割のものが注目していた。

一般市民の調査結果（表4-2）と対比してみると経済、福祉の関心について学生も同じ傾向が見られた。昭和62年度国民生活選好度調査¹¹⁾によると子供が独立した親の世代の人々のニーズは「医療と保健」に関する領域を重要と考えおり、65歳以上の独身世代でも「医療と健康」、「収入と消費生活」の他福祉領域を重視する傾向が見られた。

以上の結果は、看護学生の高齢化社会への関心は高齢者とそれに近い人々のニーズによく合致していたといえる。これは情報化社会の所産とも言えるが、また、本学に老人看護学が開講されていることを心得て入学してきている学生の資質とも大いに関係があると推察される。

表4-1 高齢化社会の到来により起こってくると思われる問題〈看護科1年生〉(複数回答) n=49

ねたきり, 病気になった時の介護は誰がするのか(介護力の不足)	21人
ひとりぐらし, 孤独な老人が増える, 居場所のない老人が増える不安	19人
若者への経済的負担が増すことについて	18人
年金・福祉制度の不備, 医療費の高騰, 再就職の問題など	17人
訪問看護, ホームヘルパー制度の充実による老人(介護)への対応について	13人
ねたきり・痴呆老人の増加からくる問題について	14人
病院・施設の不足と不備について, 老人医療について	18人
事故の発生について	4人
老人の生き方, 生きがい, 死生観の問題	11人

表4-2 高齢化社会の問題で関心のあること(20才以上の一般市民)〈S61年度岡山市調査より〉¹⁾

	福祉のこと	経済のこと	教育のこと	健康のこと	仕事のこと	住宅のこと	その他	NA	総計
男性	307 (46.3%)	162 (24.4%)	4 (0.6%)	153 (23.1%)	29 (4.4%)	3 (0.5%)	3 (0.5%)	2 (0.3%)	663 (100.0%)
女性	305 (43.0%)	168 (23.7%)	3 (0.4%)	204 (28.8%)	15 (2.1%)	2 (0.3%)	4 (0.6%)	8 (1.1%)	709 (100.0%)
全体	612 (44.6%)	330 (24.1%)	7 (0.5%)	357 (26.0%)	44 (3.2%)	5 (0.4%)	7 (0.5%)	10 (0.7%)	1,372 (100.0%)

その他この講義に関連して, 講義終了時に感想を無記名で記述させたなか「新しい発見がありました, …(中略)一般論でこの人は老人だから, こうなるんだとあてはめることに慣れていて自分が恥ずかしい」, 「老人の行動や考え方が少し分かった様な気がする」, 「呆けの祖父を見て育ったので, 年を取るのが嫌でたまらなかった。でも自分もいつかはこうなるんだろうし, そう考えて見ると老人の気持ちもほんの一寸だけ分かるような気がして, 自分の将来に役立つと思う」など老人を理解する考え方の深まりを見出し, 老年者のセルフイメージに似てゆく過程を垣間見た様である。

老人に対する看護職員の態度についてギリス¹²⁾は「統計の分析によると年齢と働いている場所は, 老人に対する態度と明らかな相関が見られた。教育においては特に相関は見られなかった」と報告している通り, 今回の調査で老人のイメージに変化も見られず, 態度の変容まで至っていなかった点など, 講義による効果の限界を知った。講義後, 数人の学生は実際に実祖父の対応で学んだ事柄を役立てたと述懐した点では, 老人への関心が喚起され始めたことを確認出来た。

4. ま と め

看護学生の老人に対するイメージについて, 老人看護概論の講義の前後でSD法と自由記載で調査した。看護学生の老人観は既に社会的情報の影響を強く受けており, 平素より関心が高く高齢化社会の情報に注目していた。調査結果を以下に要約する。

1) 経験を伴わない知識伝達が主な講義では学生の抱く老人のイメージを変えることは難しい。学生の老人についてのイメージは体験によるものが乏しく情報化社会のマスメディアの影響が大きい。

2) 授業前の老人のイメージは「老人は弱く, 小さな不安定な存在」または「温かく, 優しい, 価値ある存在」で, 老人との交流が少ない状況で得た老人像が見られ, 講義後では知識と関心の広がりからイメージ尺度得点にばらつきがややますが, 調査前後でイメージの各平均尺度得点は統計学的に有意の差が認められなかった。

3) 因子分析によって講義前で第1因子「期待する老人像」, 第2因子「若者の苦手なタイプ」, 第3因子「分かりにくい老人像」, 第4因子「若々しい老人像」など, 講義後では第1因子「理想的とする老人像」, 第2因子「老人の依存性」, 第3因子「完熟した老人像」,

第4因子「面倒見のよい老人像」などが抽出された。

4) 23の尺度はクラスター分析によると、老人のイメージは「経済性」、「温和性」、「親和性」、「健康度」、「活動性」の5群に分類出来る。

5) 高齢化社会に向けての看護学生の関心は一般市民あるいは老人層のそれとよく一致していた。

現在の老人のセルフイメージの肯定度が青年層や壮

年層より高いことから、看護教育では老人と接触する機会をもつ体験学習を頂点に据えて、知識、技術、態度の均等化の計られた教育の構築が必須であると考え

る。
ひきつづき臨地実習、模擬実習を経た看護学生の老人へのイメージ変化や老人観への影響因子を追跡したいと考えている。

引用文献

- 1) 岡山市：高齢化社会・高齢者福祉に関する市民意識実態調査報告書，p. 511 (1986)
- 2) 岩下豊彦：SD法によるイメージの測定—その理解と手引き，p. 52-58，川島書店，(1985)
- 3) 1) に前掲，p. 37, p. 211
- 4) 1) に前掲，p. 180
- 5) 守屋滝乃他：「老人」に対する意識調査，3世代における「老人観」と老人イメージ，看護教育，28, 529-540, (1989)
- 6) 片山信子：老人看護をこう教えています—実習を通しての老人看護，NURSE DATA, 10, (2), 57-58, (1989)
- 7) 山崎摩耶：普通の人びとの老いと死，看護実践の科学，14, (7), 13, (1989)
- 8) 厚生統計協会：国民衛生の動向，36, (9), 89, (1989)
- 9) 副田義也：現代における老年観，老いの発見2，岩波書店，109, (1987)
- 10) Laurie M. Gunter, Jeane C. Miller : Toward a Nursing Gerontology, Nursing Research 26, (215), 遠藤千恵子訳：看護老年学に向けて，アメリカにおける老人看護研究の動向(2)，看護展望，4, 48, (1979)
- 11) 経済企画庁国民生活局編：国民の意識とニーズ，—昭和62年度国民生活選好度調査—，30, (1987)
- 12) 10) に前掲，47

平成元年1月11日受付
平成元年1月11日受理